

第15回 日本在宅医学会大会 プログラム別 詳細情報

カテゴリー	シンポジウム(公募演題)
タイトル	当法人施設在宅医療部・医療連携支援室の開設による、病診介護連携支援への新たな試み
日時	平成25年3月31日 9:00~12:00
会場	第6会議室
所属先	1)医療法人社団プラタナス 施設在宅医療部 2)医療法人社団プラタナス 鎌倉アーバンクリニック 3)医療法人社団和五会 鷺沼ファミリークリニック 4)医療法人社団プラタナス
共著者 (敬称略)	平田 剛史 1)、飯塚 以和夫 1)、岡登 季代美 1)、松本 晶子 1)、渡部 聡子 1)、松崎 邦子 1)、遠藤 拓郎 1)、長瀬 健彦 1)2)、鈴木 正道 1)、畠中 正孝 1)3)、大石 佳能子 4)
企画趣旨	<p><目的></p> <p>医療法人社団プラタナスでは、機能強化型在宅療養支援診療所における在宅医療に取り組み、年間在宅患者数約1700名、在宅看取り数約200名の診療実績を挙げている。当施設在宅医療部では、多数の患者診療における質の高い医療の提供を目標に、業務改善へ積極的に取り組んでいる。今回、医療連携支援室を設置して、病診介護連携支援の構築と強化を目論見した。その取り組みの概要を供覧する。</p> <p><方法></p> <p>2012年3月より、当法人内に医療連携支援室を開設した。その構成員は、室長(事務長)、統括部長(医師)、看護主任、支援室員(ソーシャルワーカー、事務主任・副主任)らを主要とする。その業務内容は、コール対応や往診のバックアップ、病診介護施設の連携を目標とする以下の通りである。①コール待機医・看護師と支援室員らによる、搬送先病院探しや紹介状作成等。②待機医師・看護師らへの臨時往診の指示出し。③往診看護師や支援室員らによる診療補佐や医材管理、施設業務相談。④各支援室員による、各搬送先病院や介護事業所での、搬送患者や病診連携の情報共有、各施設にての話し合いによる問題解決、等。</p> <p><結果></p> <p>当試みにより、以下の業務改善効果を得られた。すなわち、①病院搬送業務の迅速化②適切かつ迅速な臨時往診対応と往診頻度数の増加③円滑な病診連携の情報共有と提携搬送先病院数の増加④各介護施設における業務負担の軽減、満足度の向上、問題解決への寄与。</p> <p><考察></p> <p>この試みによって、病診介護施設間における適確で迅速な情報共有に基づく、質の高い診療の場の提供が可能となり、医療の質や満足度向上への寄与が期待できた。今後、このような医介情報連携の場を通じて、在宅医療の質の向上へ貢献したいと考える。</p>